

## 地域で連携した支援ができる人材育成の教育プログラム

理学療法学科教授 田口孝行

### はじめに

昨今のように人々の生活が多様化し、高齢者が増えた社会において、市民が安全にかつ安心して暮らせる支援を行うためには、それぞれの専門職が患者や利用者及びその家族と共に他専門職と連携した協働活動が必要となります。連携協働活動を行うためには、連携するための技術も必要ですし、他者（他専門職や当事者）の多様性を理解し、“ひと”を尊重する気持ち（心）や態度も必要です。このようなことに関する教育を専門職連携教育（Inter-Professional Education：IPE）と言います。この専門職連携教育は、近年、全国的にも取り組まれ始めている教育ですが、その皮切りとなったのが本学の教育なのです。

ここでは埼玉県立大学で現在行っている専門職連携教育の概要を紹介し、さらに発展させた他大学（埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学）と連携した専門職連携教育の取り組みについても紹介します。

### 埼玉県立大学の専門職連携教育の概要

埼玉県立大学は、保健医療福祉領域で活躍できる専門職を育成している大学です。本学を卒業して資格試験を受けることによって、主に看護師（保健師、助産師）、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、保育士、検査技師、歯科衛生士などの専門職の資格を得ることができます。

本学では、平成 11 年の開学以来、“連携と統合（各専門分野が他の専門分野と連携し、人々の暮らしを統合的に支える）”を教育理念として、単なる専門一辺倒の専門職育成ではなく、他の専門職と連携して人々の暮らしを支えることができる専門職育成を目指して教育を行っております。その教育を具体化したプログラムとして、専門職連携教育（Inter-Professional Education：IPE）を平成 18 年度より導入しました。このプログラムは本学に入学した学生はどの学科に籍を置いていようと必ず学ぶ（必修）プログラムです。これによって、本学の卒業生はどんな専門職であろうと実践現場において専門職連携実践（Inter-Professional Work：IPW）ができる能力を持つこととなります。

最初にも述べましたように本学の専門職連携教育では、他者との連携協働活

動を行うための“心”や“姿勢”と“技術”を学びます。その教育プログラム内容を表に示しました。1年次の「ヒューマンケア論」、「ヒューマンケア体験実習」では、他者との連携協働活動を行うための最も基盤となる“心”や“姿勢”を学びます。2年次の「IPW論」、3年次の「IPW演習」で他者との連携協働活動の“技術”の基盤を固めます。そして4年次の「IPW実習」で実践現場における実践を通じた連携協働を体験的に学びます。このように4年間を通して段階的・体系的に専門職連携を学べるカリキュラムを構築しております。

表 埼玉県立大学における専門職連携教育プログラムの概略

科目	教育内容の概略
ヒューマンケア論 (1年次 必修)	“ひと”の一生(生・老・病・死)を見つめ、人間の尊厳、多様な価値観、“ひと”に関わることの意味や態度について学びます。
ヒューマンケア体験実習 (1年次 必修)	埼玉県内約80施設の協力を得て“ひと”の生活(過去・現在・未来)、多様性など、施設を利用する方々との会話を通じて実践的に学びます。
IPW論 (2年次 必修)	専門職が連携した活動(専門職連携実践:IPW)を行うための基礎と方法を学びます。
IPW演習 (3年次 必修)	専門職連携実践(IPW)を模擬的に体験させ、チームメンバーとの意見の食い違いなどに対する対処方法についても学びます。
IPW実習 (4年次 必修)	埼玉県内約85施設の協力を得て専門職連携実践(IPW)を実践的に体験します。連携力育成のための実践実習教育です。

## IPW実習の紹介

専門職連携教育の「IPW実習」は、連携力育成のための実践実習教育に特徴があり、その実習は埼玉県内の施設(約85施設)の協力を得て行われます。埼玉県立大学の学生が学科混合のチームを作り、これらの実習協力施設で4日間の実習を行います。これほど多数の協力施設があるということは、やはり連携協働できる専門職が実践現場で求められていることの証であり、埼玉県内の実践現場における専門職教育への貢献意欲の高さに本学教員一同感謝しております。

さて、実習では、実習に協力していただける施設の患者(利用者)さんに関する情報を施設内各部署から収集し、チームメンバーとの討議を経て、より良い生活を実現させるための支援計画を作成します。この実習を通して、学生は

- ①利用者・集団・地域の理解と課題解決の実践方法、②チームメンバーの専門性と多様性を相互理解する態度、③チーム形成と協働の実践方法を身につけ、④自分の課題を見出すためのリフレクション（チーム活動を振り返って考えること）ができることを目指します。

### 他大学と連携した専門職連携教育の取り組み（本学専門職連携教育の発展）

文部科学省の平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に採択されたことを契機として、地域住民の暮らしの課題を、多職種との連携により発見・解決できる人材（連携力の高い人材）育成を目指して、埼玉県立大学、埼玉医科大学（医学科）、城西大学（薬学科、医療栄養学科、薬科学科）、日本工業大学（生活環境デザイン学科）の4大学協働による取り組みを行っております（通称：彩の国連携力育成プロジェクト）。基本的には本学の専門職連携教育プログラム（ヒューマンケア論・ヒューマンケア体験実習・IPW論・IPW演習・IPW実習）を基盤として、4大学が協働で実施できる専門職連携教育システムを構築している最中です。

特にIPW実習は、実はすでに埼玉医科大学の医学生も参加して協働で行っていることもあり、力を入れて取り組んでおります。本学の保健医療福祉関連5学科の学生に加えて、医学、薬学、医療栄養、建築デザインの学生が混合チームを作って上述のような実習を行っています。詳細は右に添付しました本学ホームページのバナーをご覧ください。



### おわりに

地域で、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムを実現させるためには、各専門職の連携協働に関する“知識”と“技術”、そして“心”が重要であることは明らかです。本学を卒業した学生が、地域包括ケアシステムにおける連携協働のリーダー的な存在となって、地域の方々のより良い暮らしを支える支援に貢献できることを期待しております。